

[巻頭言]

センター長に就いて

曾根秀昭

東北大学サイバーサイエンスセンター

今年度から東北大学サイバーサイエンスセンター長に就きましたので、ご挨拶させていただきます。冒頭から個人的なことで失礼いたしますが、私は1992年12月に当時の大型計算機センターに移ってから23年の間、このセンターの業務に関わってまいりました。その間に、青葉山に移転し、組織は情報シナジーセンターの7年間を経て、8年前からサイバーサイエンスセンターに至りました。

前任の小林広明センター長には、サイバーサイエンスセンターに改組して以降の8年間にわたってセンター長をお願いし続けてきました。サイバーサイエンスセンターが発足した頃は、大学の情報基盤の環境変化があわただしく、学内では全学共通情報基盤の整備と運用の危機的状況の立て直しに取り組むために情報シナジー機構の再構築があり、一方、全国では次世代のナショナル・フラッグシップ・スーパーコンピュータに代表される研究開発・整備とともに各大学の情報基盤センター群における全国共同利用の在り方から議論されていました。当時の当センターの判断として、大きな変革があるスーパーコンピューティング分野でリーダーシップをとることが最優先であるとの思いから、前センター長にお願いし、昨年度まで続けました。

8年前の当センターでは、スーパーコンピュータシステムを更新してSX-9を導入したところで、また、東北大学における最初の電子計算機であったSENAC-1から50周年の年でした。その後、当センターの大規模科学計算システムは昨年スーパーコンピュータSX-ACEに更新して、新しく建てた2号館で並列コンピュータLX 406Re-2とともに運用しています。共同利用の仕組みとして、一般のコンピュータよりも2~3けた上の性能のコンピュータをどなたの研究にも利用しやすく提供するという使命を継承、強化し、その利用と研究をサポートする体制を整えて、また、その役割を高度化するために共同利用・共同研究拠点などとして広く提供して、大規模計算科学の多くの研究者を支えているものと自負します。

大学の共通情報基盤については、インターネットの利用が電話などよりも広く浸透する時代になり、大学でもネットワークシステムの整備や情報処理システムの導入を推進する時期は過ぎたのではないかと感じております。普遍的に利用できるようになった情報通信基盤をいかに活用して大学の研究・教育や運営をより良く高めていくのかという技術応用や情報通信環境の重要性が増していくところに本センターが適切で十分な役割を果たしていかなければならないと考えます。それらの利用とともに、情報セキュリティ対策が目下の懸案事項ととらえますし、その役目を担える人材育成にも当センターが貢献していくことが必要です。

以上のような課題は、昨年度までに当センターで検討し策定した、今年度からの国立大学第3期中期計画期間の目標と計画にも盛り込んでおります。

東北大学サイバーサイエンスセンターの第3期中期計画期間における基本的な目標は、以下の通りです。

本センターは、世界最先端の情報基盤を整備運用し、先端的な利用技術及び次世代の情報基盤に不可欠な研究開発を行い、独創的な研究推進の環境を創生し、この分野の指導的人材を育成することによって学術研究や産業、地域、文化に貢献する。

共同利用・共同研究拠点として、全国の大学等に大規模科学計算機資源を提供するとともに、次世代の情報基盤の研究・開発を行う拠点として先端的研究成果を追求する。

この基本的な目標を実現するために、「先端情報基盤とその整備・運用に関する研究を推進し、当該成果の学内外への提供ならびに利活用の支援・促進に努める」こと、および「先端情報基盤に関する研究の実施体制を整備・強化する」こと、「先端情報基盤に関する研究の成果の利活用を支援・促進する」こと、そして「海外の研究機関や研究者との情報交換や共同研究の機会拡大を推進する」ことなどの目標を掲げて、計画を定めました。

中期計画期間である6年間は、情報通信技術にとっては長すぎる期間とも言えますので、期末にどのような情報システムや情報サービスを提供しお使いいただくことになるのかは予想しきれませんが、本学内外の関係者の方々、とくに利用されるの方々のご期待に応えられるよう進めていきたいと考えます。今後もご支援とご指導をよろしくお願いいたします。